

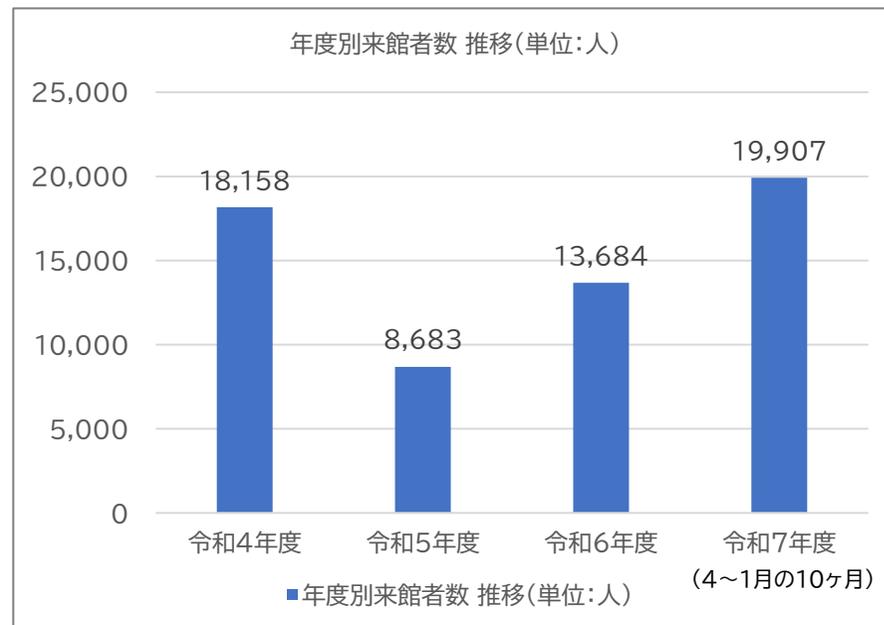
令和7年度 しょうけい館運営事業 実施状況報告

(令和7年4月1日から令和8年1月末日まで)

0. 目 次	01
1. しょうけい館利用状況	
(1)しょうけい館 来館者数	02
(2)団体利用 集計(団体種類別)	03
(3)団体利用集計(1団体人数別の団体数)	03
(4)団体利用 集計(利用団体毎の人数クロス集計)	04
2. 展 示	
(1)常設展示「心の傷による労苦」コーナー新設	05~10
(2)企画展の実施	11~15
(3)テーマ別展示	16~19
(4)3館連携企画	20~22
(5)こども霞が関見学デー	23
(6)上映会の開催	24
(7)貸出キット	25
(8)オンライン学習支援プログラム	26
3. 資料収集・保存	
(1)実物資料の収集	27
(2)図書資料の収集	27
4. 普及・広報	
(1)ホームページ・情報媒体利用	28
(2)メディア・掲載記事	28
5. 語り部活動事業	29~32
6. しょうけい館通信(友の会)	33
7. 利用者アンケート	34~39

(1)しょうけい館 来館者数 (※旧施設では館が設置している「自動カウンター機」により計測 / 新施設では「入場券発券機」により計測)

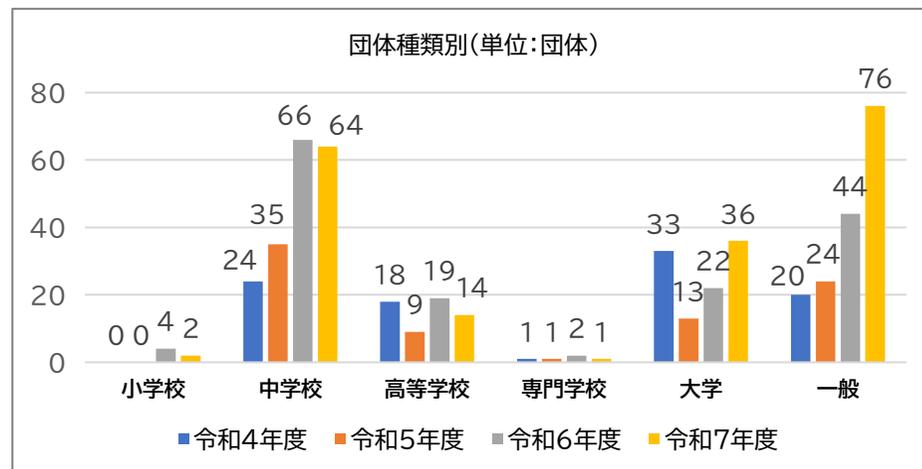
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
4月	1,520	1,098	765	755
5月	1,361	1,104	1,263	(※2) 921
6月	1,492	1,054	919	1,370
7月	1,753	1,096	1,330	2,319
8月	2,974	移転休館	1,741	5,665
9月	1,359	移転休館(※1)	1,050	2,527
10月	1,327	192	930	1,790
11月	1,315	728	1,189	1,508
12月	1,339	744	712	1,204
1月	1,205	824	1,159	1,848
2月	1,249	1,094	1,583	(※3)
3月	1,264	749	1,043	
合計	18,158	8,683	13,684	19,907



※1 令和5年度は、7月31日～10月末まで移転休館のため団体見学受付休止
 ※2 令和7年4月22日・29日は、ビル全館の空調設備交換工事のため臨時休館
 ※3 令和7年度は4月～1月末まで10ヶ月の集計

(2) 団体利用集計(団体種類別)

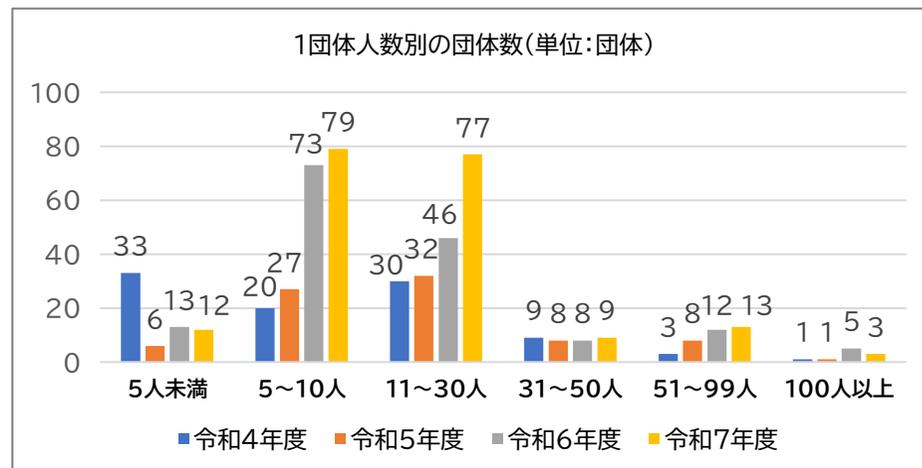
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
小学校	0	0	4	2
中学校	24	35	66	64
高等学校	18	9	19	14
専門学校	1	1	2	1
大学	33	13	22	36
一般	20	24	44	76
合計	96	82(※1)	157	193(※2)



※1 令和5年度は、7月31日～10月末まで移転休館のため団体見学受付休止 ※2 令和7年4月22日・29日は、ビル全館の空調設備交換工事のため臨時休館 ※3 令和7年度は4月～1月末まで10ヶ月の集計

(3) 団体利用集計(1団体人数別の団体数)

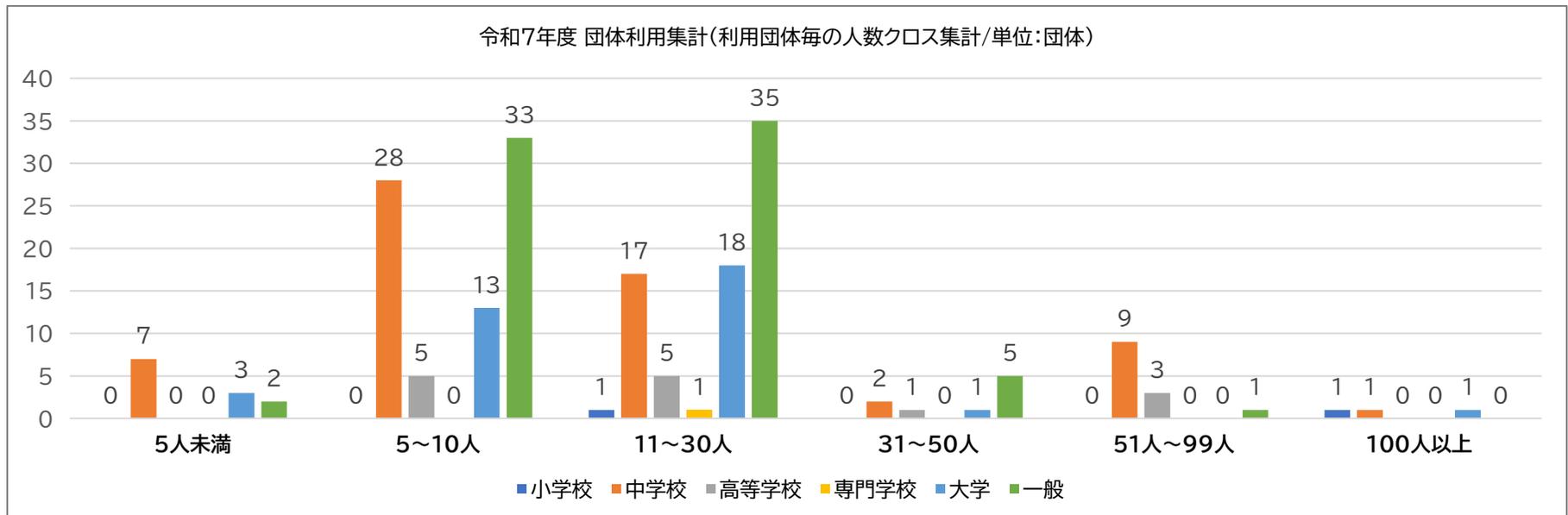
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
5人未満	33	6	13	12
5～10人	20	27	73	79
11～30人	30	32	46	77
31～50人	9	8	8	9
51～99人	3	8	12	13
100人以上	1	1	5	3
合計	96	82(※1)	157	193(※2)



(4) 令和7年度 団体利用集計(利用団体毎の人数クロス集計)

令和8年1月末日(単位:団体)

	小学校	中学校	高等学校	専門学校	大学	一般	合計
5人未満	0	7	0	0	3	2	11
5~10人	0	28	5	0	13	33	33
11~30人	1	17	5	1	18	35	35
31~50人	0	2	1	0	1	5	5
51~99人	0	9	3	0	0	1	1
100人以上	1	1	0	0	1	0	0
	2	64	14	1	36	76	193団体



(1) 常設展示「心の傷による労苦」コーナー新設

○拡充展示について

- ・常設展示の開設当初期間(2月25日～3月29日)は、テーマ別展示コーナーを活用して仮設展示も行っています。

【展示内容】

- 1) 国府台陸軍病院関連資料
 - ・国府台陸軍病院の病床日誌 図書見開き
- 2) 下総療養所関連資料
 - ・下総療養所入所戦傷病者の作品 12作品+解説資料
- 3) 武蔵療養所関連資料(協力:国立精神・神経医療研究センター)
 - ・武蔵療養所入所戦傷病者の作品 絵巻物
 - ・武蔵療養所の写真
 - ・武蔵療養所の作業療法日誌
 - ・武蔵療養所の文芸誌



平面レイアウト (No Scale)



(1) 常設展示「心の傷による労苦」コーナー新設

○常設展示情報内容(パネル展示)

精神・神経疾患の医療施設
むさし しょうせ
傷痍軍人武蔵療養所・下総療養所

1940(昭和15)年、長期の療養生活を送る施設として、精神疾患の患者を中心に受け入れる傷痍軍人武蔵療養所と、頭部戦傷、神経疾患の患者を中心に受け入れる傷痍軍人下総療養所が開設されました。

戦後、傷痍軍人療養所は国立療養所となり、作業療法、レクリエーション療法などを通じて、社会復帰への道がめざされ、作業所や一般企業で働くことができるようになって、退所した者もいました。

一方で、社会からの偏見を恐れて、家族が面会に来ない、帰郷ができないという者も少なくなかったといえます。一度でいいから故郷へ帰りたい、家族からの手紙が欲しいと願う人もいました。

医師らの働きかけによって、故郷に近い病院への転院なども進められましたが、希望がかなわないまま、療養所で生涯を終える者もありました。



(1) 常設展示「心の傷による労苦」コーナー新設

○常設展示情報内容(パネル展示)

戦後も続く労苦

年月が長く経過しても「心の傷」の様々な症状に苦しむ者は少なくありませんでした。

戦後17年経った1962(昭和37)年、国立国府台病院の精神科医であった目黒克己氏は、戦時中に入院していた104人の予後調査を行いました。104人のうち半数以上にあたる59人は、症状も治まり通常の社会生活を送っていましたが、25%にあたる26人は、ノイローゼの症状やアルコール依存などの症状が見られました。また、調査を受けることを避ける傾向も多く見られました。

自宅で療養を続けた者は、症状が出た時には家族にとって大きな負担となりました。また、精神疾患であることや入院歴があることを、本人だけでなく、家族や親類も世間に知られたくないと思うことは珍しくなく、なかなか社会復帰が進まないのが現実でした。

The panel contains several sections:

- 戦争による心の傷とは**: Explains that war causes mental trauma (PTSD) and that symptoms often persist long after the war ends.
- 戦後17年経った1962(昭和37)年、国立国府台病院の精神科医であった目黒克己氏は、戦時中に入院していた104人の予後調査を行いました。**: A key finding from the survey mentioned in the text.
- 104人の予後調査の結果**: A pie chart showing the distribution of outcomes for the 104 patients.
- 戦後も続く労苦**: A section with a red border highlighting the long-term impact of war on mental health.
- 戦傷病者の療養患者数のうち「精神病」の人数**: A bar chart showing the number of mental health patients among war-wounded individuals from 1941 to 2023.

This panel provides a detailed look at the 'Shimoda Treatment Center' (下総療養所) and the 'Heart Wounds and Hardship' (戦後も続く労苦) section.

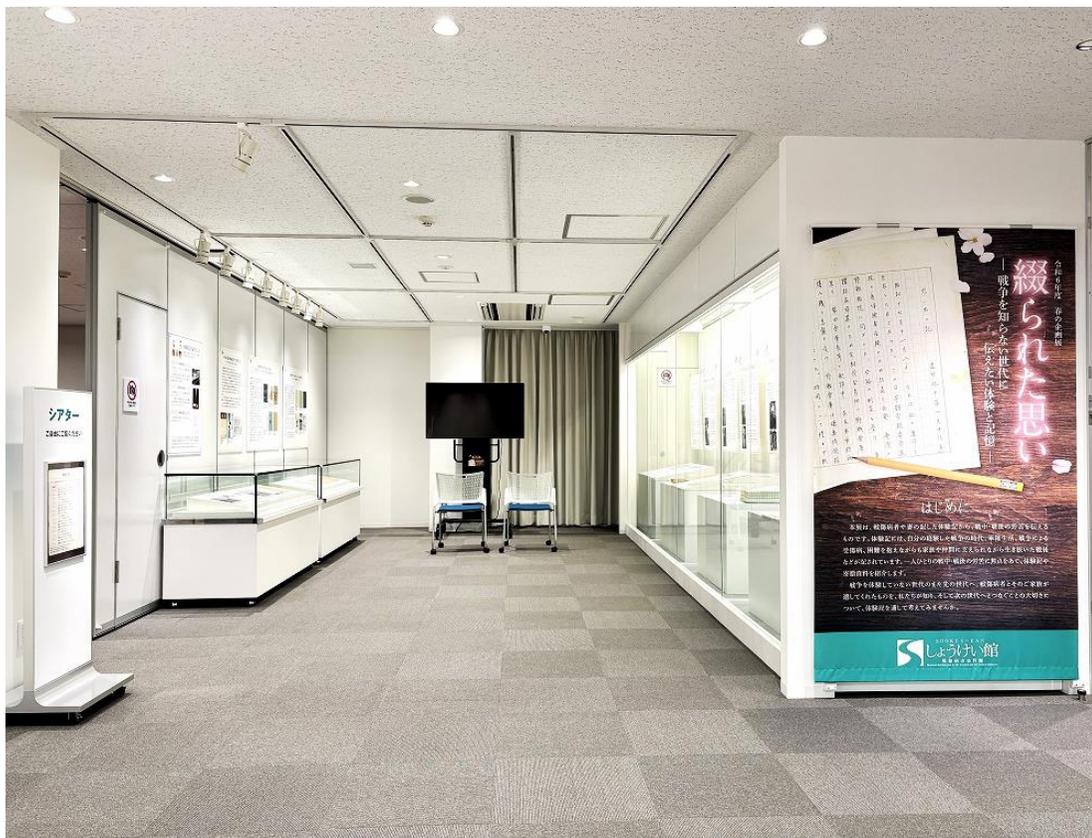
- 下総療養所**: Describes it as a facility for war-wounded soldiers, serving as a center for medical care and social support. It mentions the role of family members and the challenges of long-term care.
- 戦後も続く労苦**: Reiterates the findings of the 1962 survey, emphasizing that many veterans continued to suffer from mental health issues like PTSD and alcoholism, and that these issues often went unaddressed or were stigmatized.
- 戦傷病者の療養患者数のうち「精神病」の人数**: A large bar chart showing the number of mental health patients among war-wounded individuals from 1941 to 2023. The chart shows a significant peak in the 1950s and 1960s, with a note that the number of inpatient patients in 2023 was 0.

(2) 企画展の実施

① 春の企画展「綴られた思い —戦争を知らない世代に伝えたい体験と記憶—」

会 期： 令和7年3月4日(火)～令和7年6月1日(日)

内 容： 今年で終戦80周年となる節目の年であり、戦争体験を後世に伝えていくことが、ますます重要であることから、戦傷病者とその家族が遺していった体験記に焦点をあてて、戦中・戦後の労苦を伝えることとしました。体験記に記された、自ら経験した戦争の時代、軍隊生活、戦争による受傷病、困難を抱えながらも家族や仲間を支えられながら生き抜いた戦後などについて、寄贈資料とともに展示しました。



(2) 企画展の実施

② 戦後80年特別企画展 「武良茂(水木 しげる)の戦争体験」

会 期： 令和7年6月3日(火)～令和7年10月13日(月・祝)

内 容： 今年には終戦80年となる節目の年であり、戦争体験を後世に伝えていくことは、ますます重要な課題となりつつあります。

本展では、戦傷病者であり、著名な漫画家である水木しげる(本名:武良茂)氏の、戦地パプアニューギニアでの軍隊生活と受傷病、現地の人びととの交流などの新たな資料展示を加え、代表作『総員玉砕せよ!!』、『昭和史』などの作品に描かれることとなった水木氏の戦争体験について紹介しました。

協 力： 株式会社水木プロダクション



(2) 企画展の実施

③ 戦後80年特別企画展 連動企画 「ゲゲゲの鬼太郎や仲間たちと一緒に、水木しげるや戦傷病者の苦労を学ぶ『水木しげるが残した言葉を探そう！』」

会 期： 令和7年7月19日(土)～令和7年9月7日(日)

内 容： 特別企画展と連動した、夏休み期間の誘引策として、水木プロダクション様から特別にゲゲゲの鬼太郎のキャラクターの使用許可をいただき、館内を巡り、回答を導き出す謎解きラリーを開催いたしました。(戦傷病者の労苦を語り継ぐための重要な言葉がヒントになっています。)

協 力： 株式会社水木プロダクション

ゲゲゲの鬼太郎や仲間たちと一緒に、水木しげるの戦争体験と戦傷病者の苦労を学ぶ

水木しげるが残した言葉を探そう!

令和7年7月19日(土)～9月7日(日)

こんにちは。ゲゲゲの鬼太郎です。水木しげる先生は、戦争で左腕を失くし、それでもなんとか生きて、多くの苦労をへて、僕や仲間たちを生み出しました。先生が残した大切な言葉が、しょうけい館に隠されています。僕たちと一緒に、その言葉を見つけてください!

1 鬼太郎たちの「6つのギモン」に答えて戦傷病者の苦労を知ろう!

特別企画展を見て、水木しげるの過酷な戦争体験を知ろう

私たちのギモンのこたえは、3階 常設展示室の中にあるよ

このシートとアンケート用紙を受付スタッフに渡してオリジナルグッズと交換しよう

隠された言葉を見つけたら、必ずアンケートにも答えてね

2 6つ全部に答えたら「水木しげるの言葉が隠された場所」の暗号のナゾを解こう!

3階 常設展示室

しょうけい館は、戦傷病者とその家族が戦後、戦後に体験したさまざまな苦労についての証言、歴史的資料、書籍、情報収集、保存、展示し、次世代の人々にその苦労を知る機会を提供する施設として、平成18年に開館しました。

〒100-0073 東京都千代田区九段北1-11-5 グリーンオックス2階 TEL 03-3234-7821

観覧時間：午前10:00～午後5:30 (最終入館午後5:00まで)
休 日：月曜 (祝日または当館休日の場合はその翌日)
休 業 日：月曜 (12月28日～1月4日)
入 館 料 無料

しょうけい館 戦傷病者史料館

ゲゲゲの鬼太郎とその仲間たちと一緒に、水木しげるの戦争体験を知ってから、下のギモンに答えると、戦争で大けがをしたり、病気になった人の苦労を知ることができます。

水木先生は、戦争に行きたくなかったけど、国の命令で仕方なく戦争に行ったんだな...

水木先生のように赤い紙が無く、戦争に行かなければならなかったら、その紙は何という名前だったんだらう?

△ よう △ ゆ
○ ○ △

激しい攻撃を受けたが、水木先生は、奇跡的に生きのびたんじゃないかな...

水木先生と同じように攻撃でけがをした兵士が、手術で身体から取り出した臓器は、なんという名前だったんじゃないかな?

▽ き □ つ
○ ん

水木先生が爆撃で左腕を失った時、本当に痛くて苦しんだらうねえ...

水木先生は、戦艦に船で日本に帰ってきたんじゃないかな...

水木先生は南方の戦地に送られたけど、けがや病気になった兵士は、どこで治療を受けたのか?

水木先生は、戦艦に船で日本に帰ってきたんじゃないかな...

けがや病気になった兵士を運んだ病院船として使われた船で、戦艦も病院船と区別できる船の名前は何か?

水木先生は、日本に戻ってから、病院で手術やちゃんとした治療をすることができたんじゃないかな...

戦争で大けがをして仕事ができない元兵士たちは生活が苦しく、白い着物を着て路上でお金を集めたいという、それは、なんと呼ばれていたのしら?

手を失った兵士たちは、義手をつけたようじゃが、足を失った兵士は何を履いたんじゃないかな?

戦争で大けがをして仕事ができない元兵士たちは生活が苦しく、白い着物を着て路上でお金を集めたいという、それは、なんと呼ばれていたのしら?

□ △ < □
は □ ▽ □ ○ ん

水木しげるが残した言葉は、下の暗号の場所に隠されているよ

ふ ○ ▽ △ ○ ▽ ○ △ の ○ △ ▽ の ○ △

まア、靈魂があるとすればやはり一番残念がっているのは 戦死した者の霊だと思う

暗号の場所にあった水木しげるの言葉がわかったら、そこから選んで○に△を入れてね!

戦地では戦友たちがどどんと死んでゆく。それはあたかも小便をするような日常の光景だったのだ

戦争を賛美するのは戦地にはいない人ですよ

©水木プロダクション



(1) 企画展の実施

④ 戦後80年特別企画展 「しょうけい館証言映像展 証言がつなぐ あの日の記憶」

会 期： 令和7年10月15日(水)～令和8年3月1日(日)

内 容： 戦後80年を迎えた今年、戦争を体験した世代の高齢化は進み、いよいよ戦争体験者不在の時代が到来しつつあります。戦争体験の継承がますます重要な課題となる中で、彼らの体験を知る方法の一つに、証言映像があります。当館が収録した、戦傷病者やそのご家族、軍医や従軍看護婦などの医療関係者などを対象に、これまでに約200本の証言映像を基に、証言者をパネルで紹介したほか、証言者から寄贈された資料を展示するとともに、再編集した証言映像の上映も行いました。



(2) 企画展の実施

⑤ 春の企画展 昭和100年関連企画展示「戦傷病者と結核 ―軍隊での罹患から戦後の闘病生活まで―」

会 期： 令和8年3月3日(火)～令和8年5月31日(日)

内 容： 結核は、結核菌という細菌に感染することで発症する病であり、昭和期を代表する感染症として「国民病」「亡国病」ともいわれました。本展では、軍隊での結核は「軍隊結核」と呼ばれ、結核にかかった戦傷病者の人生に焦点をあて、軍隊生活の中でどのように結核を発症してしまったのか、そして戦中・戦後の闘病生活の様子と、結核という病と闘いながら過ごした人生の労苦を、戦傷病者と家族のあゆみから辿るとともに、関連する実物資料を展示するほか、軍隊結核に関連する資料や、結核の療養所についても紹介します。

チラシ



令和7年度 春の企画展 昭和100年関連企画展示

戦傷病者と結核

軍隊での罹患から戦後の闘病生活まで

令和8年(2026年) 3月3日(火) - 5月31日(日) 入場無料

主 催 | しょうけい館 (戦傷病者史料館)
 協 力 | 清瀬市郷土博物館、財団法人結核予防会、砂町文化センター (石田渡部記念館)、独立行政法人国立病院機構東京病院

開 館 時 間 | 10:00-17:30 (入館は17:00まで)
 会 場 | しょうけい館 2階企画展示室
 休 館 日 | 毎週月曜日・5月7日(木)・5月17日(日)
 ※5月4日(月)は閉館

しょうけい館
戦傷病者史料館



令和7年度 春の企画展 / 昭和100年関連企画展示

戦傷病者と結核

軍隊での罹患から戦後の闘病生活まで

軍隊での結核は「軍隊結核」と呼ばれ、その対策が大きな課題のひとつでした。集団での行動を基本とする軍隊の特徴と、戦地での過酷な環境などによって、戦傷が起こっていない時にもかりやすい感染症であり、患者数の増加によって、罹患し除役となった者の療養場所の確保も課題でした。

本展では、結核にかかった戦傷病者の人生に焦点をあて、軍隊生活の中でどのように結核を発症してしまったのか、そして戦中・戦後の闘病生活の様子と、結核という病と闘いながら過ごした人生の労苦を、戦傷病者と家族のあゆみから辿るとともに、関連する実物資料を展示します。また、軍隊結核に関連する資料や、結核の療養所についても紹介します。

レントゲン写真
 病室(戦傷病者画)
 陸軍から発行された結核に関する文書

地下鉄をご利用の場合
 東京メトロ 丸線下町(東西線・半蔵門線)7番出口より徒歩5分、5番出口より徒歩5分
 都営地下鉄 丸線下町(新南線)7番出口より徒歩5分、5番出口より徒歩5分

バスをご利用の場合
 都営バス 丸線下町(南4条線)より徒歩4分
 平代田区コミュニティバス 平代田循環所(丸線下町)より徒歩5分
 ※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

しょうけい館について
 当館は、戦傷病者とそのご家族が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦についての証書・歴史的資料・書籍・情報を収集・保存・展示し、次世代の人々にその労苦を知る機会を提供する顕彰施設として、平成18年に開館し、令和7年に移転しました。

しょうけい館
〒102-0073 東京都千代田区丸線北1-11-5 グリーンオーケ九段2階
Tel.03(3234)7821 Fax.03(3234)7826 www.shokai-kan.go.jp

(3) テーマ別展示の実施

① 第6回「義肢」

会 期： 令和7年4月1日(火)～令和7年7月22日(火)

内 容： しょうけい館にご寄贈いただいた「義肢」に関する収蔵資料について、パネル等を交えて展示・紹介しました。



(3) テーマ別展示の実施

② 第7回 「心に傷を負った兵士」

会 期： 令和7年7月23日(水)～令和7年10月19日(日)

内 容： 令和6年4月1日よりおこなってきた、「心の傷」を負った戦傷病者とその家族の資料、関連資料、専門家による研究成果などに基づき、パネルや資料等を展示しました。

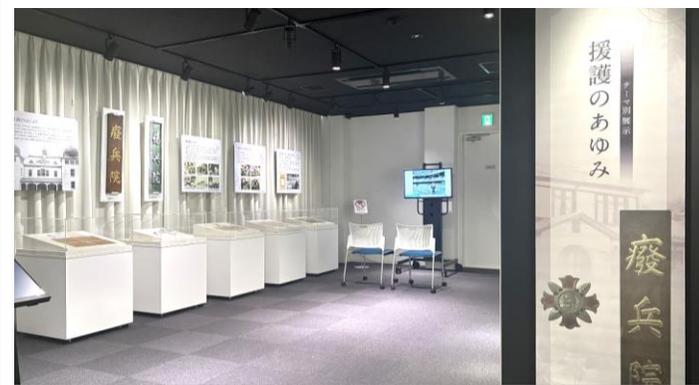


(3) テーマ別展示の実施

③ 第8回「援護のあゆみ」

会 期： 令和7年10月22日(火)～令和8年2月23日(月・祝)

内 容： しょうけい館にご寄贈いただいた「援護のあゆみ」に関する収蔵資料について、パネル等を交えて展示・紹介しました。



(3) テーマ別展示の実施

④ 第9回 「心の傷による労苦」

会 期： 令和8年2月25日(水)～令和8年3月29日(日)

内 容： 令和6年4月1日よりおこなってきた、「心の傷」を負った戦傷病者とその家族の資料、関連資料、専門家による研究成果などに基づき、パネルや資料等を展示しています。



⑤ 第10回 「戦傷病者と医療」

会 期： 令和8年3月31日(水)～令和8年6月

内 容： しょうけい館にご寄贈いただいた「戦傷病者と医療」に関する収蔵資料について、パネル等を交えて展示・紹介します。

(4) 3館連携企画

① 戦後80年 3館連携企画展（一戦傷病者の労苦を伝える 秋田展一）

主催： しょうけい館・昭和館・平和祈念展示資料館
 会期： 令和7年9月29日(月)～10月7日(火) 午前10時～午後6時
 会場： 秋田県立美術館 県民ギャラリー（秋田県秋田市中通1-4-2）
 後援： 秋田県、秋田県教育委員会、秋田市、秋田市教育委員会、秋田魁新報社、NHK秋田放送局、ABS秋田放送、AKT秋田テレビ、AAB秋田朝日放送
 協力： 一般財団法人秋田県遺族連合会および一般財団法人日本遺族会第1ブロック
 内容： 令和7年厚生労働省統計で、秋田県は全国で初めて戦傷病者手帳の交付件数がゼロになり、戦傷病者不在となりました。しょうけい館は戦傷病者の労苦を語り継ぐために、秋田県出身の戦傷病者の手記や体験記などを展示いたしました。
 来場者数： 1,628人

チラシ

帰還者たちの記憶ミュージアム
 しょうけい館 昭和館
3館連携企画展
 戦後80年
しょうけい館 戦傷病者の労苦を伝える 秋田展
 戦傷病者の労苦を伝える 秋田展
昭和館 昭和のくらし 秋田展
9/29(月)～10/7(火)
 秋田県立美術館 1F 県民ギャラリー
 午前10時～午後6時
入場無料

戦後80年 3館連携企画展
入場無料
帰還者たちの記憶ミュージアム
 平和祈念館 in 秋田 | 高校教師・早田貢一が描くシベリア抑留
しょうけい館 戦傷病者の労苦を伝える 秋田展
昭和館 昭和のくらし 秋田展
お問い合わせ
帰還者たちの記憶ミュージアム
 しょうけい館
昭和館
秋田県立美術館
入場無料

(4) 3館連携企画

① 戦後80年 3館連携企画展（一戦傷病者の労苦を伝える 秋田展一）



(4) 3館連携企画

② 戦後80年 夏休み3館めぐりスタンプラリー

- 主 催： しょうけい館・昭和館・平和祈念展示資料館
 会 期： 令和7年7月19日(土)から9月7日(日) ※3館にてスタンプ台紙を配布
 参 考： 各館オリジナルグッズ
 ・しょうけい館………オリジナルトートバッグ
 ・昭和館………オリジナルミニボトル
 ・帰還者たちの記憶ミュージアム…オリジナルクリアファイル
 集 計： スタンプ台紙配布枚数 6,166枚 (前年度6,615枚)
 3館スタンプ完了オリジナルグッズ配布数:1,176組 (前年度660組)



オリジナルグッズセット (しょうけい館:オリジナルトートバッグ)



チラシ・ポスター・スタンプカード(共通)

(5)こども霞が関見学デー

しょうけい館は今年度も「こども霞が関見学デー」に参加し、戦争によるケガや病気で戦後も苦労した戦傷病者の経験が学べるプログラムを実施しました。また今年度は、長年に渡って活動した功績を認められ、厚生労働大臣より感謝状が贈られました。

期 間： 令和7年8月6日(水)～8月7日(木)

内 容： 戦後80年 戦争に行っけがをした人の大変さを知ろう！

来場者数： 624人(カウンターによる計測/父兄含む) / 広報キット配布数：700セット

【会場の様子】

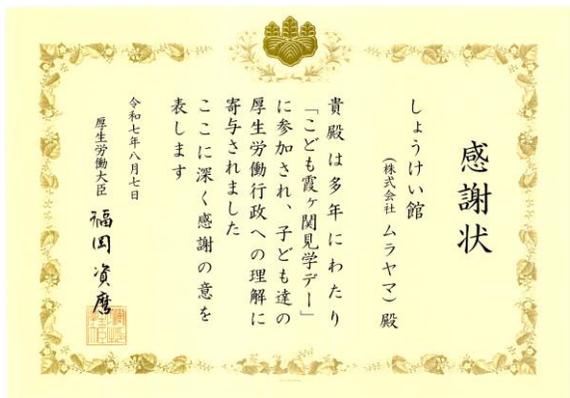


●義手でキャッチ！

乃木式義手の体験用ツールで、実際に豆類を移動しました。



【感謝状】



●ゲゲゲの鬼太郎ぬり絵

水木プロダクションより、特別に許諾いただいたキャラクターぬり絵を、普段と反対の手で塗りました。




令和7年度 こども霞が関見学デー
戦後80年
戦争に行っけがをした人の
大変さを知ろう！

開催日時：
8月6日(水)
8月7日(木)
 (午前10時～午後4時)

プログラム ※状況により変更する場合があります。ご了承ください。

義手でキャッチ
 すばやくはさんで！
 手を使えば簡単なのに…

義手に触れてみよう
 どんな感触なのか、どれくらい重いのか、実際に触れたり、持ってみよう

ゲゲゲの鬼太郎ぬり絵
 いつもと反対の手で書いてみよう。うまく塗れるかな？

水木しげるが描いた戦争体験マンガを読んでみよう！

ゲームに参加したら「グッス」がもらえるよ！
 (8時～9時30分、終了)

しょうけい館
 戦傷病者史料館

(6) 上映会の開催

上映会の種別	証言映像 作品名
<p>① 企画展 連動 上映プログラム1</p> <p>戦後80年特別企画展「武良茂(水木 しげる)の戦争体験」に合わせて水木しげる夫妻の証言映像を上映しました。</p> <p>期 間： 令和7年6月3日(火)～10月13日(月・祝)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●二人で一人、傷痍軍人の妻として ●水木さんとともに歩んだ“ゲゲゲの女房” ～いつもそばにいてくれた～
<p>② 企画展 連動 上映プログラム2</p> <p>戦後80年特別企画展「しょうけい館証言映像展 証言がつなぐ あの日の記憶」の開催期間中、当館が所蔵する証言映像から代表的な記録を上映するとともに、本企画展のために再編集した特別編を上映しました。</p> <p>期 間： 令和7年10月15日(水)～令和8年3月1日(日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●人間の尊厳の回復につくした生涯 【特別編集】 ●家族の絆で支え合う ●二人で一人、傷痍軍人の妻として ●失明の夫を支えて ●がむしゃらに生きて、描く ●療養所は大きな家族～支えあい、助けあい～ ●受傷した身にまた召集が ●義足と妻に支えられて ●生きる…それは死ぬよりつらかった ●努力家の夫を信じて～失明の夫とともに～ ●16歳で右手を失って ●シベリア珪肺～今も続く後遺症～ ●小学校を出て先生に
<p>③ 帰還者たちの記憶ミュージアム 九段ギャラリー特別展 連携プログラム</p> <p>帰還者たちの記憶ミュージアムの九段ギャラリー特別展開催に合わせて、シベリア抑留経験のある戦傷病者の証言映像を上映しました。</p> <p>期 間： 令和8年2月6日(金)～令和7年2月15日(日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●抑留中に右手を失って ●シベリア珪肺を抱えながら ●脊椎損傷でも松葉杖で歩けるように

(7) 貸出キット

常設展示の内容を貸し出しパネル仕様にした貸出キットです。戦傷病者の労苦を、解説文、資料画像で伝えられるように構成しました。令和7年度は、自治体や関係団体など6件に貸し出しました。

貸出しパネル 30枚セット（網掛けのパネルは15枚ダイジェスト仕様）						
「戦地へ向けて」	徴兵-1	「戦場での受難、治療」	受傷-1	「搬送、戦時下の療養生活」	「家族へつもこ」	生活の困窮-1
	徴兵-2		受傷-2			生活の困窮-2
	入営-1		受傷-3			傷病とともに生きる-1
	入営-2		受傷-4			傷病とともに生きる-2
	出征-1		救護・収容-1			傷病とともに生きる-3
	出征-2		救護・収容-2			ともにのりこえて-1
	戦地での生活-1		野戦病院-1			ともにのりこえて-2
	戦地での生活-2		野戦病院-2			ともにのりこえて-3

貸出し用 実物

義手・接端部

貸出しパネル(抜粋)

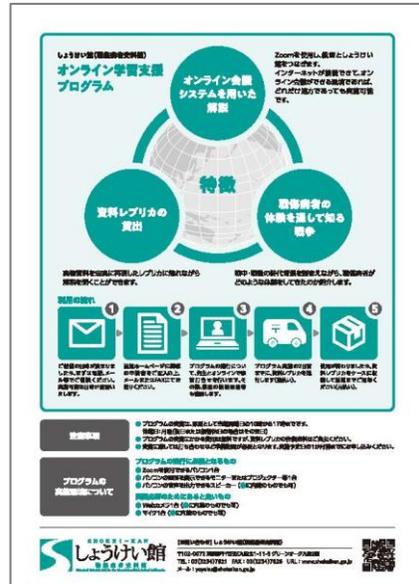


義手

(8) オンライン学習支援プログラム

令和7年度は、オンライン学習支援プログラムを開始いたしました。申し込みがあった学校(学級)とオンラインで繋ぎ、戦傷病者の労苦を学ぶスライドと、先に送付した実物資料を効果的に使用し、より深く理解できるプログラムとなっています。

チラシ



スライド(例)



2025.05.20 大東市立大東中学校



2025.06.19 福岡市立西福岡中学校



オンライン学習風景



送付する実物資料



(1) 実物資料の収集

寄贈では、戦傷病に関する資料(恩給診断書など)、下総療養所に入所していた戦傷病者が製作した作品などを受け入れました。購入では、海軍病院の写真葉書、満洲の部隊で使用されていた脱脂綿などを入手しました。

令和6年度末までの登録数(内、平成24年度まで 10,853点)	32,888点
令和7年度の資料寄贈(令和8年1月末現在)	480点
令和7年度の資料購入(令和8年1月末現在)	5点
館所蔵資料総合計(令和8年1月末現在)	33,373点

※令和8年1月19日より1月23日まで燻蒸を実施しました。

(2) 図書資料の収集

寄贈では、戦友会誌や戦争経験者による体験記などを受け入れました。購入では、当時の結核に関する文献や陸軍病院発行の写真集などを入手しました。

令和6年度末までの登録数(内、平成24年度まで 7,892点)	10,679点
令和7年度の図書寄贈(令和8年1月末現在)	23点
令和7年度の図書購入(令和8年1月末現在)	44点
館所蔵資料総合計(令和8年1月末現在)	10,746点

(1) ホームページ・情報媒体利用

① ホームページ・SNS(Facebook/X)の活用

ホームページ・をFacebook・Xを活用し、情報発信に努めました。特にSNS(Facebook・X)では、企画展や語り部定期講話会などの情報がリンクされることにより、来館動機となっています。

なお、しょうけい館ホームページは、基本的にこれまで掲載した情報を引き継いでおり、「館だより」を11回、企画展や地方展、こども霞が関見学デーなど、特設ページを開設し、情報を4回更新したほか、語り部講話会についても11回情報更新し、情報発信に努めました。

ホームページ



Facebook



X



② 情報媒体での発信

令和7年度は、「広報千代田」等の広報物、東京都博物館協議会等の刊行物、「千代田区観光協会」HP、「インターネットミュージアム」、「イベントバンク」「さんたつ」「神楽坂deかぐらむら」等の情報サイトを活用し、企画展や定期上映会、地方展等について、それぞれの媒体に対して22回掲載し、リアルタイムでの情報提供に努めました。

(2) メディア・掲載記事

「資料4 広報ネット掲載記事一覧」のとおり多くのメディアで紹介されました。

第1期生～3期生の語り部による講話活動に、様々な活動支援や実施管理をしています。

館内の活動は、「団体見学者向け講話」と「定期講話会」を実施しました。「団体見学者向け講話」では、聴講者の希望も考慮しつつ語り部の講話内容を調整しています。また、館外活動では、語り部講話を希望する団体の場所に出向く「派遣講話」を精力的に実施しました。

① 館内活動(団体見学者向け講話)

No.	日付	団体名	人数	備考
1	令和7年4月15日	「PTSD」の日本兵家族会・寄り添う市民の会ちば	13	
2	令和7年4月16日	船橋市議会総務委員会	12	
3	令和7年4月24日	JP労組群馬連協	14	
4	令和7年5月22日	UAゼンセン 神奈川県支部	22	
5	令和7年5月27日	東京土建小平東村山支部 けやきの会	10	
6	令和7年6月29日	文京学院大学	23	
7	令和7年7月4日	新宿区立新宿西戸山中学校	5	
8	令和7年7月6日	セイノースーパーエクスプレス労働組合	11	
9	令和7年8月1日	淑徳大学人文学部歴史学科	29	
10	令和7年8月11日	健康文化会 小豆沢病院	7	
11	令和7年8月24日	ラッキートラベルフレンドパーク	7	
12	令和7年8月26日	立命館大学	15	
13	令和7年9月13日	サークル史の会	23	
14	令和7年10月11日	医療生協さいたま生活協同組合県連ソーシャルワーカー一部会	11	
15	令和7年11月7日	横浜市市民局人権研修グループC	7	

① 館内活動(団体見学者向け講話)

No.	日付	団体名	人数	備考
16	令和7年11月13日	小泉区防犯パトロール隊	33	
17	令和7年11月29日	医療生協さいたま	18	
18	令和7年12月10日	神奈川みなみ医療生協 浦賀支部	38	
19	令和7年12月11日	防衛医科大学 医学科・看護学科	160	4回に分け実施
20	令和7年12月12日	上尾市立大谷中学校	5	
21	令和8年1月10日	東アジア近現代史連続セミナー	20	
22	令和8年1月24日	毎日文化センター	6	
23	令和8年1月27日	東都生協 考える消費者	22	
24	令和8年1月30日	東村山市立東村山第一中学校	25	

団体見学 講話の様子



上尾市立大谷中学校



防衛医科大学校



立命館大学

② 館内活動(定期講話会/特別講話会)

No.	日付	団体名	人数	備考
1	令和7年4月13日	定期講話会	19	
2	令和7年5月11日	定期講話会	6	
3	令和7年6月8日	定期講話会	46	
4	令和7年7月13日	定期講話会	32	
5	令和7年8月10日	定期講話会	35	
6	令和7年8月13日	令和7年度 特別企画 夏の語り部講話会	52	
7	令和7年8月14日	令和7年度 特別企画 夏の語り部講話会	53	
8	令和7年8月15日	令和7年度 特別企画 夏の語り部講話会	60	
9	令和7年9月14日	定期講話会	30	
10	令和7年10月12日	定期講話会	31	
11	令和7年11月9日	定期講話会	12	
12	令和7年12月14日	定期講話会	11	
13	令和8年1月11日	定期講話会	13	

定期講話/特別講話の様子



定期講話会



夏の特別講話会



定期講話会(戦艦歌 特別講話)

③ 館外活動(派遣講話)

No.	日付	団体名	人数	備考
1	令和7年5月8日	国立ハンセン病資料館	15	
2	令和7年8月2日	港区立港南図書館	5	
3	令和7年8月2日	国立ハンセン病資料館	51	
4	令和7年8月10日	国立ハンセン病資料館	89	
5	令和7年8月11日	東部連合長老会青年会、日本橋教会	22	
6	令和7年8月16日	みさと雑学大学	35	
7	令和7年9月3日	東京都立国際高等学校	27	
8	令和8年1月21日	和洋九段女子高等学校	62	

派遣講話の様子



国立ハンセン病資料館



和洋九段女子高等学校



みさと雑学大学

一般広報誌として館の情報を充実化させて、令和7年8月にvol.004、12月にvol.005を発行いたしました。

近年、友の会会員数が減少していることもあり、「しょうけい館通信」と誌名を改め、各自治体や学校、図書館など公共機関をはじめ、博物館などの関係機関などへも配信いたしました。

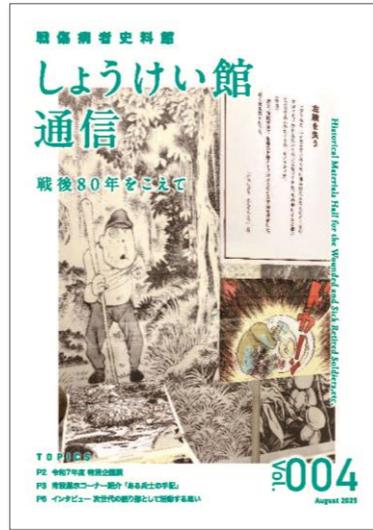
施設の情報や、各種企画展、また語り部活動なども紹介することで、当館と戦傷病者の労苦について知っていただく機会にしています。

(資料5-しょうけい館通信 参照)

友の会会員数 (令和8年1月現在)

347名

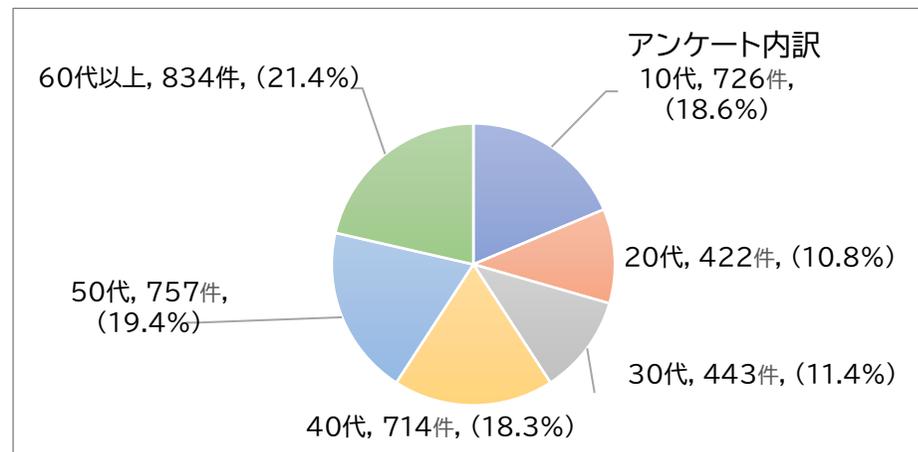
※友の会会員は、元日本傷痍軍人会会員と、同妻の会会員とご家族



令和7年度は、3994件の回答が寄せられました。

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
比率	18.6%	10.8%	11.4%	18.3%	19.4%	21.4%
件数	726	422	443	714	757	834

・ 令和8年1月末までの集計



感想・意見(集計記録より抜粋)

【10代】

- 水木しげる先生のマンガを見てみて、戦争の悲惨さが分かり、二度このような事は起こしてはいけなくて改めて思いました。3階の解説付きの野戦病院の様子を見て、戦って居た人たちが苦しい思いをしていた事が分かりました。体験者の証言から、もっと具体的に戦争中の様子が分かりました。
- 戦争については、社会の授業でならったことがあったけど、水木しげるさんの戦争体験の展示をみると、戦争はとても大変なことだし、食料もない中で戦争をするのは、とても苦しいことで、戦争は二度とあってはいけなくて、これからの生活で戦争をしないようにいきたいです。
- 戦争という出来事に詳しくふれずに、過ごしてきたのですが、今年が戦後80年でたくさんのメディアで、戦争を題材にしたものを見る機会が多く、今回靖国神社へ行った帰り、この史料館を見つけました。いろんな視点から戦争について、考えさせられるものが多く、貴重な体験になりました。ありがとうございます。もう少し自分なりに理解を深めて、もう一度来たいと思いました。
- 戦争とは残酷で悲惨で、地獄のような環境下で戦った兵士たちのおかげで今の日本があるんだと実感しました。
- やはりどんな時でも戦争してはいけなくていいなと思いました。それに戦争なんてしても人が死んでしまうだけの争いで必ずこのことを伝えていきたいです。

【10代】

- 私たちは戦争をしていないから、当時の人の気持ちや大変さ、辛さをすべて知ることはできないかもだけど、実物があったり、当時の写真があったりして、それを見てもものすごく当時の辛さや大変さが分かった。これを見て改めて戦争はしてはいけないと思った。また、このような資料館があることで、戦争を経験していない人でも戦争の悲惨さを知ることができ、戦争は絶対にしてはいけないということを考えさせてくれると思いました。特に野戦病院で麻酔なしで手術をしていたこと、野戦病院は室内ではなく外の洞窟で治療していることにおどろきました。
- 今まで戦争を体験した方の言葉や物などはインターネットを通じてなどしか見る機会がなかった。しかし、実際に戦争へ行くときに残した遺書、義足や義手、赤紙を見てみて戦争に行くということや戦争が起こることとは本当に死と隣り合わせなんだと実感した。また、戦争の野戦病院を再現した模型には本当に衝撃を受けた。麻酔なしで手の手術を受けて痛みに苦しんでいる人の姿や今にも力がついてしまいそうな人の表情をみてとても心が苦しめられた。
- 学校の授業では分からなかった戦場の痛さと戦争の後のことがよく分かった。実際に自分の目で見ないと戦争の真の怖さ知ることができないと思った。
- 戦争の悲惨さを肌身で感じる良い機会になりました。被害状況や戦況などの情報は現代では多くの場所で情報が得られます。けれど、戦傷病者たちに着目して情報を集められたことがなかったので、とても深い学びとなった。
- 日本は今、平和で本当に戦争があったのか？という半信半疑でした。しかし、しょうけい館に行って、被害者の証言集みたいなのとか、壊れた眼鏡が展示されていて「ああ戦争って本当にあったんだな」と信じることができました。戦争中の様子をもっと調べてもっと身近に感じたいです。戦時中を生きた人が少なくなっている中でどう次世代に伝えるべきだろう？次世代につなぐために自分ができることはなんだろう？ということをよく考えていきたいです。
- 戦争について確かにあったんだと再確認することができました。戦争のことをまったく知らない平和な時代に生まれ、どこか現実味がないと思っていたのかもしれませんが。体から摘出された銃弾や戦場でかけられていたメガネ、野戦病院のジオラマなど頭から離すことのできない光景がたくさんあり、恐怖とともにたしかにそこにある現実だったのかと深く感じるすることができました。戦時中の治療や戦後の兵隊さん方のことも考えたことがなかったので、麻酔無しで腕や足を切ったり重い義足や義手を見て、終わったからそれでいいだけでなく、アフターケアの面もすごく大変だったのかとあらためて知ることができました。
- 戦中戦後のことをより深く、理解することができました。特に印象に残っていることは証言映像の「生きる～それは死よりつらかった」というもので観る前は、なぜ生き残ることができたのに…死ぬよりまだ生きられるのになぜ？などと疑問が浮かばせながら動画が再生し動画が進んでいると、証言者の方の一言で自分が疑問に思っていたことが吹き飛んでいきました。「この手になってしまい息子を抱っこできない他の子たちはされているのに申し訳なかった」まさかこの理由があったとはと衝撃を受け、思わず涙が出てしまいました。このように戦後でも苦労されている方々、日本のために頑張ってくれた方々より深く感謝しなければならないなと思いました。今後の世の中にもしょうけい館のようなものを実際に目で見てもらうことが絶対に良いなと思いました。

【20代】

- 内容的にエネルギーをたくさん使いましたが、戦時中だけでなく、その後の生活や家族の様子まで知ることができて良かったです。光を使って貫通した銃創を見せる展示が印象に残りました。
- 戦争は終わっても戦争によって受けた傷はなくなることはなく、その後の人生に、ずっと影響していくものであるということに改めて感じました。
- 戦争に関する施設に行く機会がなかなかなく、高校生ぶりにこのような施設に来たので、とても勉強になりました。「生きる。それは死ぬよりつらかった」という言葉がとても印象に残っています。戦争を経験した人たちのメッセージにもあったように、今後平和が続き、戦争のない未来がくると良いなと思いました。
- 戦争について勝敗で見てしまったり、大きな事件や戦いに注目しがちだけど、その裏ではたくさんの傷病者の人々がいて、その人々のおかげで戦争は成りたっていたのだと思うと、改めて戦争はだれも幸せにしないなと思いました。特にも気になった展示は精神病者のコーナーです。今の自分でも見て苦しいのに直面していた人はより精神にくるだろうなと思いました。
- 体験や実物を見ることで、戦争の恐ろしさを改めて感じることができました。学生以来の戦争施設の見学でしたが、今日のような歴史にふれる機会はとても大切だと思い、また多くの人、特に若い世代に語り継いでいかなければいけないと思いました。また水木さんの体験については、初めて知ることが多く来館できて、とても良かったと感じました。
- 3Fゲートに連動した導入映像がとてもよかった。若い世代に共感できる内容がつかみとして最適と感じた。
- 私は学校の教師をしています。今年未来探求という授業で「平和継承」をテーマに行っています。戦争を知っていく中で、多くの数字が出てきます。戦死者、戦傷者など…。この数図には1人ひとり人生があり、体温があり、傷があると改めて感じた資料でした。人の名前、その方の言葉や、至る経緯が詳しく書かれていて、想像しやすく、戦争を知らない私の世代にもわかりやすかったです。水木さんのことは、妖怪を書いているマンガ家さんとは知りませんでした。私自身ファンで小学校のころ鳥取へ行き、記念館にも行きました。その水木さんが片うでをなくしていると知ったのは今年の4月チラシをいただいてからでした。その体験を聞きたく(知りたく)夏休みの間にこちらに来ました。来られて本当に良かったです。3Fの重たい空気は1人ひとりの記録を大切に展示をしているからだと思います。戦後がこれからも続くように、ここで学んだことを遷都に伝えられたらと思います。
- 私は今、小学校で教員として働いています。国語の授業で戦争文学を子どもたちは学びますが、どこか他人事のような気がしてなりません。私自身、本で読んだ情報、インターネットで調べた情報しか知らず、他人事のような気がしていました。ですが、今日訪れて、他人事から少し自分事として捉えられるようになったと思います。そして、昔のことを知ること、実物を見ること、今の日本(自分の生活)と比べることで平和の大切さ、命の尊さについて深く考えられました。今日見たもの、感じたことは責任をもって子どもたちに伝えて行きたいです。

【30代】

- 義手をはめるコーナーでその重みを知った。
- 水木先生の鬼太郎が好きで、たまたまではありますが今回の展示を知りました。自分が小さい頃は、当時の戦争経験者からお話を聞く機会は多かったです。当事者から聴く体験談は非常に恐ろしいものでした。今でも覚えています。その時からでも20年近くたち、亡くなってしまった方々が多いです。ですので自分たち、次の世代へつなぐためには、このような展示が今以上に重要になっていくと思います。また今回水木先生の体験から知っていくのもとても良い機会になると思いました。
- 戦争が終わった、じゃあ終わりではなく、その後を生きなければならない、でも目が見えなかったり、片手両手腕、足もない、お金もさほどもらえなかったと展示で更に知れたと思いました。障害をもち、戦後どうやって生きていたのかなと思うと、何とも言えない気持ちになりました。
- この時期になると、テレビは戦争の話でもちきりです。ですが、私自身、戦争で傷ついた人々について考える機会はとても少ないものでした。戦争を考える際、命が経たれるイメージばかりが先にきますが、生き残った人々がどう暮らしていったのか、どう対処されていたのか、これこそ、今を生きる私たちが知るべき事なのかなあと思いました。小学校や中学校、高校の時に知りたかったな、と思います。
- テレビや映画で感じる戦争とは違った、リアルな戦争を感じることができた。今日、このような施設があることを初めて知ったが、とても有意義な時間を過ごすことができた。今後も様々な企画が行われることが「伝える」という目的に繋がるのではないかと思います。
- 精神保健福祉士として、精神疾患の方と接する機会が多いため、今回のテーマ別展示はとても興味深いものでした。映像でその方の心身の状態がよくわかり私自身とても勉強になりました。
- なぞときが趣味で、この近くで別のなぞときイベントがあったので、言い方悪いですが、ついでに立ち寄りしました。すごく興味深く、1時間近く展示を見てしまいました。水木しげるさんが、戦争を体験しているというの知りませんでした。自分の悩みは、なんてちっぽけなんだろうと感じました。戦争体験者の方々が、こんな苦しみを他の人達に味わってほしくないと言っているのが印象的でした。
- 展示だけでなく、図書室もあるのはとっても良いなと思いました。戦争関連の本はどうしても昔の物が多く、図書館に行くか古本を買うかということが多いので、ここに戦争関連の本が集まっているのは、うれしく思いました。
- 手足を失ってしまったり、今までと同じ様に生活できなくなったことにとてつもない絶望を感じつつも、何とか工夫して、出来ることを探して生きようとする皆様に心を打たれました。もちろん、今後この様な辛い思いをする方が出ないように平和を大切にしていかなければいけないと思いました。

【40代】

- 小学2年生の子供と一緒に来ました。少しでも戦争について知ってほしいと思い来ました。まだ理解できないと思いますが、この先少しずつでもいいので、戦争がどういうものなのか興味を持っていてほしいです。戦争の史料館に連れて来たのは始めてでしたが、こわがりながらも摘出弾や、義足、義手に興味を持っていたようでした。
- 今年は戦後80年なので、小学校高学年を連れて戦争について学びに来ました。新しい戦前、今を戦前にさせないために、私たちはどうすればいいのか。子供なりに考える機会にもなればと思いました。
- 80年前、遠い昔のことで現実味を感じるのにかなり想像力が必要だった。自分の子供もいつか連れて来たとしても「事実」として伝え、見せることは出来ても「実感」として感じさせることは中々、難しいと感じた。それ程、平和な時代が続いた、続けることができたという成果なのだと前向きに捉えつつも、同じことをどのようにすれば繰り返さずにすむのか、簡単ではないと思いました。
- 戦傷病者の証言映像を見ました。戦時中の心身の苦しみのみならず、終戦後は周囲からの差別や偏見に晒されるという事実で戦争の悲惨さは長きに渡ることに胸が苦しくなりました。証言映像は出身地から探し、故郷の戦傷病者のエピソードを選択しました。同郷の方言で語る姿は、ハンデがあっても逞しく生きる姿勢は誇りに思いました。1人でも多くの方にこちらを訪れていただき平和の尊さを知って欲しいと思いました。
- 6歳の娘が水木しげる先生(鬼太郎)が好きで、たまたまSNSで見かけたので来館してみました。戦争のことなど、全く知る機会がなかったので、いろいろ学ぶことができて良かったです。鬼太郎の仲間たちがたくさんいて、喜んでました。ありがとうございました。
- 実際に戦争に行った方々が実際に身に着けていた靴やめがねやジオラマ、水木しげるさんの言葉がすごく重みのあるものを感じました。実際に経験した方々の言葉が聞けなくなる今、この様な形で、私たちに戦争を伝えてくださる場所が必要だと思います。子供たちに今ある平和が当たり前ではなく、自分たちが大切に守り続けなければいけないことを伝えていきたいです。
- 初めて来館しました。ちょうど水木しげる展をやっていたので、戦争を身近に感じるとともに、共感がもちやすかったです。展示品も本物が多くあり、リアリティを感じやすかったです。VTRも見ることができ、理解がより、深まりました。やはり、戦争を知らない世代として、戦争のこと、平和のことを知ることはいけなくてはいけないことだと思いました。そして、戦争のない平和な世の中にしていけないといけないのだと強く思いました。
- 戦争体験者が減っている、戦争を語ってくださる方が減っている今こそ戦争が与える人災を今一度知っていくべきだと思いました。また、語り部では貴重なお話が聞けたことに感謝します。
- 今回は一人でしたが、妻や子供にも触れさせたいと思います。ありがとうございました。招集された方が息子さんにあてた手紙が忘れられません。

【50代】

- 戦争がおわっても続く戦争の悲惨さに苦しくなりました。
- 「死んだ方がまだ！」と証言される方も映像で拝見いたしました。後遺症を抱えた人生。本当に苦しかったと思います。「孫世代」としては、少しでも当時の事実を、まず知ることが大切だと思い、これからも参りたく存じます。
- 戦傷病者の方がいかに大変な思いで生活されてきたのか、よくわかりました。文字として残すことも大切ですが、本人が語っている映像を見せていただき、貴重な資料であると強く感じました。戦争を体験した人達が少なくなっていく事実は、避けられませんが、語り継いでいくことの大切さを学ぶことができたと思います。
- 私も子どもも そして私の親も戦争を知りません。戦後80年となり、戦争を体験された方々のお話を聞く機会はなく、世界各地で日々紛争や戦争もどこか自分のことの様に感じられず、自分のそんな姿を恥ずかしく思いました。戦争では心も身体も痛みます。平和についてしっかり考えていきたいと思えます。

【60代以上】

- 語り部講話や展示を視聴し、まだまだ戦争について知るべき事実があると思いました。戦争を2度と起こさないためにも戦争がどれだけ悲惨か、私たち一人ひとりが知るべきだと思います。もっと多くの人にこちらの展示を見て講話を聞いてほしいと思います。
- どれも衝撃的で言葉にならない。本当にこの様なことがあったのですね。
- 「戦争神経症」についての展示、今後充実されると聞いています。期待します。
- 3階のビデオ映像「ヒステリーの病後の種々相 紀元2599～2600」は衝撃的でした。肉体における直接的な損傷も少しはあるのかも知れませんが、心に負った傷でこれ程までに身体に影響を及ぼす戦争の恐ろしさをまざまざと見せつけられました。
- あまり知られていない傷痍軍人や戦争トラウマのことが少しでも理解できました。戦争が戦闘状態のことだけではなく、戦傷者やその家族、社会にまで深く影響を及ぼしていることを感じました。今後ともずっと語り伝えていかないといけないと思いました。
- 「戦争」というものが、どういうものか、それぞれが兵士、家族にどのような影響をあたえたのか知る事ができた。